

日本二十六聖人殉教記念碑(指定番号:第20号)



- 名称 : 日本二十六聖人殉教記念碑
- 指定番号 : 第 20 号
- 指定日 : 平成 31 年 3 月 8 日
- 所在地 : 長崎市西坂町 2400
- 概要 : 鉄筋コンクリート造・花崗岩上げ
高さ 5.6m、幅 17m
- 建造年 : 昭和年
- 指定理由 :

日本二十六聖人を記念するため、昭和 36 年(1961)に県指定史跡内に建築された花崗岩製、高さ 5.6m、幅 17mの台座の碑で、表面にはブロンズ像、背面にはモザイクが設置されている。

表面のブロンズは、彫刻家の舟越保武によるものである。「昇天の祈り」と題して、殉教した二十六聖人がそれぞれの名前とともに一人ひとり表現されている。

背面の石塁碑は、建築家の今井兼次によるものである。二十六聖人が京都で捕えられ、長崎へ連行されて殉教するまでの経路を描いている。その右端には二十六聖人の象徴として、福田海岸より採集した二十六個の玉石群により、キリストの人類への犠牲の象徴とされる葡萄の房が構成されている。また、殉教者の剛気と勇気を象徴する櫛の葉と実の彫刻が添えてある。

「きょうと」、「1.4.1597」の日付が刻まれた環状石の端から、殉教者の苦難の路は長い荒々しくよじれてゆく切り石の帯となって、左端の殉教者の血潮を示す十字架群に達し、殉教地「ながさき、2.5.1597」が刻まれている。碑の上方には、「SURSUM

CORDA」(心を挙げて)の言葉が刻まれ、その中央に灼熱真紅化した一つの石が太陽を形象化した形でデザインされている。碑の右側面には殉教者の勝利を意味する棕櫚(シュロ)、左側面には聖霊と十字形象を火焰(かえん)の上に配して浮彫化させている。

この建造物は景観形成重点地区に位置していないため、その景観形成に関する方針には一致していないが、日本におけるキリシタン迫害の歴史上重要な場所であるこの西坂の地において、その歴史や宗教的な特徴をその外観の独特のデザインで表現された貴重な景観を有しており、日本の歴史上非常に重要な場所であるこの西坂の地において、その独特な歴史を考慮したデザインが施されている貴重な建造物である。

現況写真



正面



背面